

令和元年度自己評価結果

種 別 児童自立支援施設
施設長 名 玄間 正彦
実施日 令和元年11月1日～11月20日
自己評価分析実施日 令和元年11月28日(木)
自己評価分析会議参加者 園長、副園長、課長、むつみ寮L、ますみ寮L
自己評価結果(詳細は別紙参照)

1 評価出来る点

- 自己評価することでどうなっているのか自身が確認をしたり、把握することが出来た。
- 第三者評価で指摘された性教育プログラムについては昨年度性被害児童について検討を開始し、今年度は性加害児童の支援について取り組みを開始した。
- 課題を正面から取り組む姿勢は評価出来る。
- 平成30年度、令和元年度も自己評価を継続的に実施することが出来た。

2 課題

- 中・長期計画、児童の調査など計画をしていたり、実施をしているが把握していない職員もおり、周知徹底が必要。
- 性教育については取り組みを開始したがマニュアル作成まで出来るか課題である。
- 児童自立支援施設特有の地域との交流(ニーズの把握)や開かれた施設という意味で評価が低くなってしまっている。しかし、施設の機能からするとどうしても閉鎖的な面があり解消は難しい。
- 10月、11月と職員が退職し募集をしているが職員補充には至っていない。欠員が発生している中では十分な支援が出来ないため、欠員をなくするための取り組みを本課にも伝えながら取り組んでいくことが必要。
- 学校との連携については現在も密にしているが、今後も連携を密にとって児童の支援に支障が生じないようにしていく必要がある。
- どこの施設でも受け入れ困難な児童が措置されてきているため、児童間のトラブルが多くなり、児童の心理的支援が重要になっている。

3 まとめ

自己評価を実施することで次年度への課題や目標が明確になった。明確になった課題については改善に向けて取り組んでいくことを再認識できた。